

一般質問



中塚 議員

- 一、松浦市自立への市長の覚悟について
二、国・県への要望事項並びに諸活動について

質問

答 弁

一、市町村合併から3年、18年3月議会での自立についての市長答弁は、「財政健全化による、いわゆる足腰の強い松浦市になってから自立宣言したい」とのことであったが、(1)財政削減による財政健全化の目的は立っているのか。(2)財政健全化の目的が立つならば、自立宣言をすべきであるがいかか。(3)今回の副市長人事によって、議会は欠員2となり、18名での議会運営を強いられることになるが、なぜ市長はあえて議会に副市長を求めたのか。また、副市長はなぜ受けたのか。松浦全市民に説明責任を果たすべきであるが、市長、副市長に尋ねる。

一、(1)基金からの繰り入れということから言えば、20年度は概ねこの財源不足が解消できる見通しを立てている。23年度を目標とする財政健全化計画は達成できると考えている。(2)夢と希望を持っていただける地域づくりが自立の道とされている。現在、自立に向かっての基礎づくりに取り組んでいるところであり、来年からは強い決意を持って、自立に向かった具体的な施策を展開していきたい。(3)(市長)市政を運営する上で、市民の目線で行政運営ができ、市民と協働で市政運営ができること等を考え合わせて人選させていただいた。色々な批判、指摘もあると思うが、ご理解いただきたい。(副市長)議会であれ、理事者であれ、松浦市の将来に向けた思いは一つではないかという自分なりの判断をし、苦渋の選択をした胸中を察していただきたい。

二、新しいまちづくりについては、執行部と議会が連携して可能性を積極的に探っていくことが必要である。このことについては、国、県の支援は欠かせないものであり、議会のご支援、ご協力をいただきたい。

一般質問

立 議員
鈴 議員

- 一、生物生息環境調査について
二、乳幼児対策について

質問

答 弁

一、市内には大変珍しい生き物が生息している。志佐川にはチクゼンハゼ、その上流にはサンショウウガイが生息しているが、いずれも絶滅の危機に瀕している。また、シダ類7種類、離弁花類14種類、合弁花類26種類、単子葉植物27種類等が絶滅危惧種である。鳥類は20科目53種類が市内に生息している。環境庁レッドデータブック及び長崎県植物誌にもまた、火電立地環境影響調査においても、身近な生き物の環境は急速に悪化していることが明らかである。市独自で希少生物及び生活環境の推移等の把握に努めることは大変重要と思われるが、どう考えるか。

二、近年、妊婦の病院受け入れ拒否、緊急時対応不備、小児科医不足による乳幼児の受診不安等のニュースを目にする時、子どもを持つ親は大変心配である。安心して子育てができる育児環境施策が少子化対策とも連動することから、担当課として、どう対策を講じているのか。

他に、水源涵養林対策についてと実効性及び効率的行政組織改編について、質問しました。

一、土地改良法の改正に伴い、農業農村整備事業と環境との調和ということから、平成14年に「田園環境整備マスタープラン」を作成した。ただ、内容的に資料不足のところもあり、今後精査をしていきたい。また、調査については、特に学校の先生や子どもたちの協力を得ながらやった方がいいと思うので、教育委員会と協議させていただきたい。あわせて市内のボランティア団体等の方とも話をしていきたい。

二、5月の組織改編後、妊娠、出産から子育てに関する窓口を一本化し、市民サービスの向上と子育てを支援する生活環境の整備に努めている。

また、乳幼児の救急医療体制については、新生児訪問や乳幼児健診の折にお知らせしており、県が実施している小児救急電話相談についても、お知らせカードを渡しているところである。